

ハイブリッドトラスを採用

富士宮市で木造工場棟完成間近

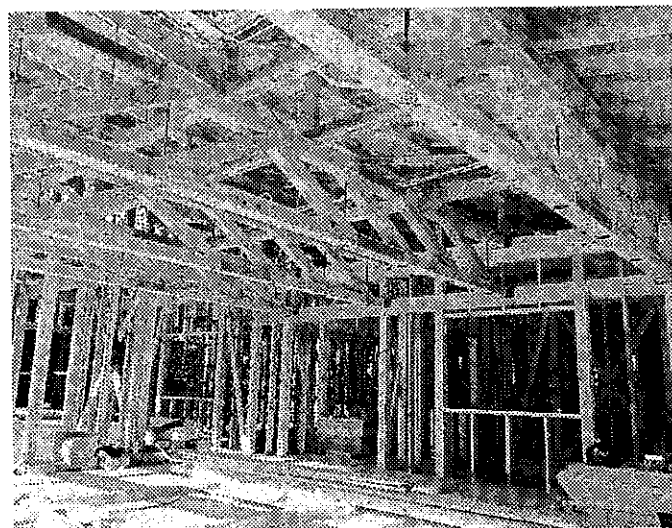
朝霧ハイランド

朝霧ハイランド（静岡県富士宮市、馬飼野公洋社長）は、富士宮市内で木造の農産物加工処理工場を建設している。軸組工法に富士松など地域材を活用し、トラス併用で大空間を実現しているのが特徴だ。設計・施工はバース設計工房（同、清勇貴代表）、木材調達やプレカットはマルダイ（同富士市、深沢裕一郎社長）が担当している。総工費は約1億5000万円、完成は来年1月の予定だ。

同社は富士山麓の「観い」という馬飼野社長 床合板と野地板には松光施設として知られるの意向と、設計・施工 構造用合板（富士山の「まかいの牧場」の運側の木造提案が合致 木・ひのき合板）を、営企業。今回の新工場し、先進的な木造工場 梁・桁には県産杉と米は乳製品やパン、ケーとして誕生することと 松、欧州アカ松集成材キなどの製造施設の集まった。

約化を目的としたもの 新工場は木造2階建 09・39立方尺（うちで、地産地消を軸として（延べ床面積682 地域材43%）となつる事業者として「ぜひ 平方尺）で、柱・土台た。地域の木材をしいた・筋違には富士松を、 また、2階の研修ル

新工場2階の研修ルーム。ハイブリッドトラスで大空間を設けた



ものは初のオール地域材仕様であり、マルダイがプレカットとともにトラス製造を担当した。

一般流通品の木材を使った軸組工法で組んでいるため施工しやす

ームには、富士松12く、コストも鉄骨やRC等には比べて割安になった。完成後も内部に8・19のハイブリッドトラスを4本使用し分があるため、「工場で大空間を実現した。の操業開始後、落ち着いたら見学会などを実施していきたい」（馬腰原研究室が共同開発 飼野社長）と話している。